

魔法の Wallet 活動報告書

【基本情報】

報告者氏名：長谷川雅美

所属：太田市立沢野小学校

記録日：2020年2月11日

【キーワード】

読み書き指導

【対象児の情報】

○学年 小学校2年生（8歳）

○障害名 ダウン症 知的障がい（療育手帳あり） 構音障がい 右耳難聴
両眼遠視乱視（めがね不使用）

○障害と困難の内容

- ・ 文字と音をつなげること、手先の器用さなどの要因から、自分の名前を読むことも書くこともできない。
- ・ 発音が不明瞭であること、語彙が少ないこと、単語での発語であることもあり、相手とのコミュニケーションがとれない。
- ・ 姿勢の保持が難しく、いすに座って集中が継続しにくい。

【活動目的】

○当初のねらい

- (1) 「読めるって楽しい」「もっと読みたい」という意欲を支えることで、文字の読みを身に付ける。
- (2) 「書けるって楽しい」「もっと書きたい」という意欲を支えることで、文字の書きを身に付ける。
- (3) 「言いたいことが伝わった」「相手がわかった」という経験を増やすことで、気持ちを交えたやりとりを楽しむことを目指す。

これらのことを通して、発信に対する意欲をもたせ、自分にあった方法での人と気持ちを交えてやり取りを楽しむことを目指したい。

○実施期間 4月8日から1月31日 実施者：長谷川雅美 実施者と対象児の関係：担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

読む・書く	4月
ひらがなを読む	○
かたかなを読む	×
ひらがな（静音）を書く	○
ひらがなを書く （濁音・長音・拗音・促音）	×
かたかなを書く	×
漢字を書く	×

計算する	4月
数の大小	○
数唱	○
足し算（繰り上がりなし）	×
足し算（繰り上がりあり）	×
引き算（繰り下がりなし）	×
引き算（繰り下がりあり）	×
図形	△

話す・聞く	4月
発音	△
単語のオーム返し	○
やりとり	×
単語のみ聞く	△

行動	4月
いすに10分間	○
2つの指示	△
模倣	○
食事・排せつの自立	×

(読む)

- ・ ひらがなは、逐次読み。カタカナ、漢字は読めない。

(書く)

- ・ 筆圧がないため、文字なぞりも難しい。鉛筆で書くよりは、マジックで書く方が書きやすいようだ。ノートテイクはできない。

(話す)

- ・ 発音が不明瞭である。
- ・ 自分から言うことは「おはようございます」「できました」の2語である。
- ・ 発語も言葉の繰り返し、語尾の模倣のみになりがちである。一方的な発語が多い。

(計算する)

- ・ 数唱は30までできる。足し算や数の分解や合成はできない。

(行動)

- ・ 姿勢の保持が難しいため、椅子に座っていられる時間が10分程度である。
- ・ 2つまでなら、指示を忘れずにできることもある。
- ・ 言葉で伝えられないため、その場を動かないことで抵抗の気持ちを示す。
- ・ 文字や言葉でのコミュニケーションが成立しづらいことがほとんどであり、自分の思いも周りの思いも伝わりにくく、やりとりが難しい。
- ・ 人のまねをしたり、褒められたりすることが、好きである。
- ・ 食事と排泄は自立していない。着替えは、時間はかかるができる。
- ・ 右耳難聴との情報であるが、学校生活において特に聞こえないと感じることはない。
- ・ 両眼遠視乱視との情報であるが、1月に調べたところ両眼でB判定であった。

○活動の具体的な内容

(1) 「読めるって楽しい」「もっと読みたい」という意欲を支えることで、「文字の読み」の習得を目指して

児 童 の 姿	活用した	アプリなど
① 音と文字が意識できる	[絵本が読み放題！知育アプリPIBO] [NHK for School](おはなしのくに)	 
② 音とイメージが結びつく	[デイジーポット] [ひらがな たんご1]	 

(4月から)

右の時間割赤字のように、1時間目の国語の時間に、[デイジーポット][ひらがな たんご1]を活用した。まず、教材を[デイジーポット]で読んでもらい、聞いたり、まねをしたりした。また、残りの10分間程度で、[ひらがな たんご1]シリーズを使い、文字の練習をした。

なお、その際、体幹の弱さや集中しやすい環境を作るた

1学期の時間表

	月	火	水	木	金
朝行事	朝読書	読み聞かせ	朝体育	仲間づくり	集会
1	国語	国語	国語	国語	国語
2	算数	体育	音楽	道徳	算数
3	体育	算数	図工	国語	国語
4	学活	自立	自立	自立	体育
パワーアップ	国語	算数	国語	算数	算数
5	生活	国語	算数	図工	生活
6			生活		

め、机やいすに工夫をした。工夫した点は次のとおりである。

- カuttingテーブルの使用
- 椅子の背面と座面に、低反発クッションを張り付ける
- 床に踏み台を置く
- 学習道具を入れる箱の用意

時間表にある、水色の時間には、[絵本が読み放題！知育アプリ PIBO][NHK for School](おはなしのくに)を 15 分間取り入れた。

また、読めそうな絵本や興味のある本を手にとれるようにした。図工で「スイミー」の読書感想画を描く授業があれば、手にとれるところに「スイミー」の絵本を置き、画像で見た絵本「ももたろう」「こぶとりじいさん」などを学級文庫に用意した。

(9月から)

国語の授業で、必要に応じて[デイジーポット]を使っている。9月は週に3回ほど使っていたが、それ以降は、ほとんど使わなくなった。自分で読める教材が増えてきたことが要因である。ただ、1月末から学習している、「うみへのながいたび」「お手がみ」では、教材文が長いため、授業の最初に一度使用した。



(2) 「書けるって楽しい」「もっと書きたい」という意欲を支えることで、「書き」の習得を目指して

児童の姿	活用した	アプリなど
① 文字と音が一致する	[FirstWords:Japanese] [にほんごーひらがな] [クイズ これはなーに?]	
② 形が意識できる	[なぞっておぼえる！ひらがなカタカナ] [にほんごーひらがな] [にほんごーカタカナ] [ひらがな おけいこ] [ひらがなシューター]	
③ 書く体験をする	[なぞっておぼえる！ひらがなカタカナ]	

(4月から)

時間割の赤字の1時間目の国語の時間では、残りの10分間程度で、[FirstWords:Japanese]、[クイズ これはなーに?]、[なぞっておぼえる！ひらがなカタカナ]、[にほんごーひらがな]、[にほんごーカタカナ]、[ひらがな おけいこ]、[ひらがな たんご1]を使い、文字の練習をした。

6月になると、アプリで学習した後、シールで形をとる活動を行ったり、鉛筆を使ってドリルに取り組んだりした。



(10月から)

10月になると、パワーアップタイムに友達が行っている[ひらがなシューター]を見て、自分もやりたいと言い出した。そのため、週に2回、10分ずつの時間を使って活用している。



始めた当初から、問題の単語を声に出して読み、楽しそうに取り組んでいる。

文字が書けるようになってくると、連絡帳を書くことはもちろんのこと、ワークシートにも書こうとし、書いた文字も形が整ってきた。そこで、書けるようになった文字を「言葉の木」として掲示した。

	月	火	水	木	金
朝行事	朝読書	読み聞かせ	朝体育	仲間づくり	集会
1	国語	国語	国語	国語	国語
2	算数	体育	音楽	道徳	算数
3	体育	算数	図工	国語	国語
4	学活	自立	自立	自立	体育
パワーアップ	国語	算数	国語	算数	算数
5	生活	国語	算数	図工	生活
6			生活		



(3) 「言いたいことが伝わった」「相手がわかった」という経験を増やすことで、気持ちを交えたやりとりを楽しむことを目指して

児童の姿	活用した	アプリなど
① 「伝わる」体験をする	カメラ機能	
② 伝える方法を補う	なし	
③ やりとりを楽しむ体験をする	なし	

(生活科の授業で)

右の年間指導計画の黄色の生活科の授業には、タブレットをもって出かけた。生活科では絵日記での記録が多いため、カメラ機能を使い、写真で補完した。

その記録したものを家庭に持ち帰らせた。そうすることで、家族と授業について話をするようになって考えた。

(係活動で)

4月から「連絡係」として職員室に、配布物を取りに行かせた。時には、「教頭先生にお願いするんだよ」と相手を指定した、用事をお願いして、活動させている。

「新編 新しい生活 下」(2年) 年間指導計画

月	単元名	小単元名
4	春だ 今日から 2年生 どきどき わくわく	春を さがそう
		1年生を むかえよう
		まちの ことを 話そう
5	まちたんけん	★野さいを そだてよう
		まちたんけんの 計画を 立てよう
		★野さいの せわを つづけよう
		まちたんけんに行こう
6	生きもの なかよし 大きくせん	見つけた ことを 教え合おう
		生きものを さがしに行こう
		生きものを とりに行こう
		★野さいを しゅうかくしよう
		生きものを そだてよう
7		★野さいの ことを まとめよう
		生きもの の ことを つたえよう

○対象児の変化

(1) 「読めるって楽しい」「もっと読みたい」という意欲を支えることで、「文字の読み」の習得を目指して

4月当初は、担任が一文字一文字指でさすと、不明瞭な発音ではあるが、ひらがなを読むことができる程度であった。しかし、7月には絵本『三びきのやぎのらがらどん』を突然読んで周りを驚かせた。カタカナのある絵本でも声に出して読むようになった。9月になると、初見で、一人で教科書の「おおきなかぶ」が読めるようになった。教科書をデジポットで予習をしなくても、ほとんどを読めるようになってきた。

1月になると、初見で「はたらくじどう車」「うみえのながいたび」を読めるようになった。

(2) 「書けるって楽しい」「もっと書きたい」という意欲を支えることで、「書き」の習得を目指して

4月当初は鉛筆をもって筆圧がないため、文字をなぞることも難しいという印象と受けた。実際、書写のノートを使って書いてみると、ギザギザをなぞることも難しい状態であった。そこで鉛筆で書くことよりも、指で書けるアプリを使い指導を続けたところ、9月には、自分でドリルの問題を読み、しっかりと文字を書くようになった。国語の時間では、ドリル学習を行って学習を進めたが、そこでは問題を読み、自分で「ぶどう」と書く姿が見られるようになった。書いた文字をみると、しっかり形を捉えて書けていることがわかった。自分から鉛筆をもち、チャイムと同時に問題集を開く姿に成長を感じた。3学期になると、漢数字も書けるようになり、授業のやることをクラスのみんに知らせる黒板に、見通しを書くようにもなった。

(3) 「言いたいことが伝わった」「相手がわかった」という経験を増やすことで、気持ちを交えたやりとりを楽しむことを目指して

昨年、本児童と接した時に、聞き取れない発音をするお子さんだという印象を強く受けていた。4月に担任となり、理解している言葉はあるが、自分の気持ちを伝える言葉が少ないと、あらためて感じていた。そこで、家族を主に大人を相手と話題を共有することから始めることとした。なかなか言葉が増えず、やりとりを楽しむことは難しいが、7月になって二語文で話すようになってきた。保護者からは、「二語文で話せるようになってきたんです。昨日はハンバーグ、たべるうって」と連絡を受けた。学校でも、友達に「はるかちゃあん、トイレ」と声をかけるようになった。

9月になると、給食の時間では、「はるかちゃあん、おいしいね。」「はせがわせんせえい、たべて。」など一緒に食べている6人に、たくさん話しかけるようになった。1月になると、教師との会話が増え、算数の時間には、「問題、難しい。」と自分の気持ちも話せるようになってきた。

係活動では、1学期は大人も同行したが、2学期からは一人で職員室にお手紙に行くようになった。職員室にいる教職員から、「〇〇君、ごくろうさま。手紙を取りに来たの」「重たいかな」と聞かれて、「だいじょうぶ」と答えることもできるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

(1) 「読めるって楽しい」「もっと読みたい」という意欲を支えることで、「文字の読み」の習得を目指して

本校で使っている教科書で、読めるようになった教材は右の通りである。

読めるようになった教材（教育出版）

4月	なし	10月	けんかした 山
5月	あかるい あいさつ	11月	だれが、たべたのでしょうか
6月	こえを あわせて あいうえお	12月	いろんな おとの あめ
7月	こえを あわせて あいうえお	1月	はたらく じどう車
	くまさんと ありさんの ごあいさつ		うみへの ながい たび
9月	すずめの ぐらし		
	おおきな かぶ		

エピソード 本への興味が広がった

4月当初は、椅子に座ってられる時間が10分程度であったが、5月の朝読書にあった、読み聞かせの時間では静かに聞くことができるようになってきた。4、5月は、金曜日に図書室に本を借りに行くと、毎回『まてまて』を借りていたが、6月からは、毎回違う絵本を借りるようになってきた。7月には、借りてきた『三びきのやぎのらがらどん』を突然、声に出して読んだ。音と文字をだんだん意識し始めたとともに、読めるようになった文字とそのイメージをふくらませる絵に、興味をもったのだと考える。また、週に2回ある、朝読書の時間では、[絵本が読み放題！知育アプリPIBO] から自分の好きな絵本を選んで、楽しい時間を過ごしていた。

1学期中は、週に2回、国語の授業の終末部分の時間を使って、音と文字を意識できるようにするために、[NHK for School] の『おはなしのくに』を視聴していることがよい影響を与えていると考える。うれしそうに、「これ」と言わんばかりに、『おはなしのくに』のももたろうを指さして、選んで視聴をしている。それを見て周りの友達も、「Tくんは、ももたろうがすきなんだね」と声をかけるほどである。ももたろうの言ったことにあわせて、口を動かしたり、お気に入りの場面では声を上げて笑ったりする姿が見られた。

エピソード 自分からデジター教科書を開く

音とイメージが結びつくように、国語の授業では、デジター教科書を使ってきた。4月当初は、一文字一文字を教師が指ささせて読ませていたが、6月の末からは、自分でデジター教科書を開き、聞き、上手に真似をしていた。



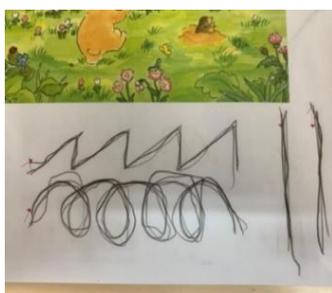
(2) 「書けるって楽しい」「もっと書きたい」という意欲を支えることで、「書き」の習得を目指して

文字の変化は次の通りである。

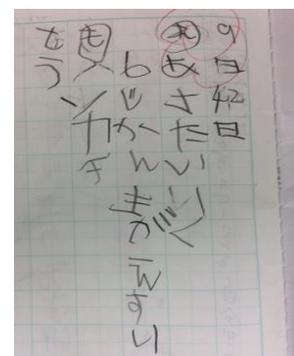
【1月の3月のノート】



【2年の4月の書写ノート】



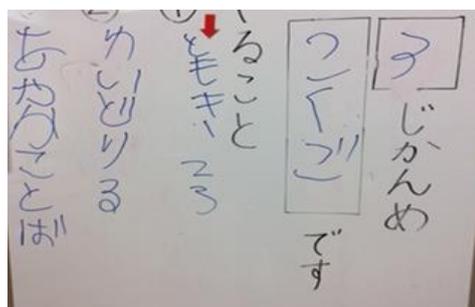
【9月の連絡帳】



【11月の様子】



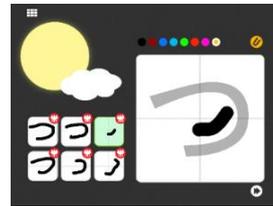
【1月に書いた学習黒板】



エピソード 指を使ってひらがな50音を書ききった

毎日の国語の授業は2時間設けているが、そのうちの1時間で[ひらがな おけいこ]を使って、4月から学習を進めた。昨年度のノートを見ると、なかなか形がとれず、音やイメージが結びつか

ない様子うかがえたが、[ひらがな おけいこ]には興味をもって、学習するようになった。4月の中旬、『つ』から始めた。6月で『ぬ』で50音をすべて学習しきった。他のアプリも併用しているが、楽しく取り組んでいた。



(3)「言いたいことが伝わった」「相手がわかった」という経験を増やすことで、気持ちを交えたやりとりを楽しむことを目指す。

エピソード 学校であったことを家で話した

生活科では、伝わる体験をし、今後も伝えたいという意欲をもたせるために、『野菜をそだてよう』の単元でカメラを使って、報告を書いていた。初めての授業では、種をまいた。その様子を写真に撮っておいた。そうしたところ、タブレットを家に持ち帰り、祖父母に見せていた。祖父母からは、「写真を見ながらトマトの話をするのができたんですよ。」と、お迎えの時に連絡を受けた。写真を見ながら、話が弾み、家でもいっしょにトマトの種をまいたそうだ。同じように、芽、ふたばなど成長するたびに写真に撮って家に持ち帰り、家庭で話題になったそうだ。



エピソード 自分の気持ちを会話に入れ始めた

7月には二語文になり、4月当初に比べると、語彙が増え、自分の気持ちが少しだけ入れられるようになった。休み時間には、くまのおもちゃを使って、支援級の友達とおままごとで遊ぶようになった。社会性の向上が見られる。



エピソード 算数で問題を出し合った

算数でも介助員の先生に「田村先生 何時でしょうか」「正解」と言って、問題を出すようになった。1月には、大きな数の勉強で問題を出すと、「問題、難しい。」と言いながら、楽しく学習をしている姿が見られた。



エピソード 係活動が一人でできた

係活動では職員室に手紙を取りにいく「連絡係」をしている。1学期は、大人が同行したが、3学期になると、一人で出かけて行くようになった。3学期に「教頭先生に、模造紙をもらってきて」とお願いしたが、不安そうな表情だったため、メモを持たせて行かせた。メモを見ながら教頭先生にお願いしたようで、模造紙を持って無事教室に帰ってきた。

【まとめ】

当初のねらいにそって、発信に対する意欲をもたせ、自分にあった方法での人と気持ちを交えたやりとりを楽しむことをねらい、活動してきた。文字の読み、書きを習得、周りの人とのやりとりの体験を増やす活動をしてきたことで、さまざまなことができるようになってきた。また、自分から二語文を話し、発信することが多くなり、相手の言ったことなどに対して、「難しい」「おいしいね」「すごいね」「ありがとうございます」など、自分の気持ちを交えて返答することも、少しずつできるようになった。今後は、本児にあったやりとりの方法を模索し、生活がよりよくなるように支援していきたい。